

協働ロボットパッケージ外販におけるニーズ調査(愛三工業) ～あいちロボット産業クラスター推進協議会プロジェクトチーム(PT)～

》プロジェクトチームの概要

【背景・課題】

人口減少、製造業就職ランキングの低下等が喫緊の課題としてある中、協働ロボットによって、働き方を変え、魅力のある製造業にする必要がある。

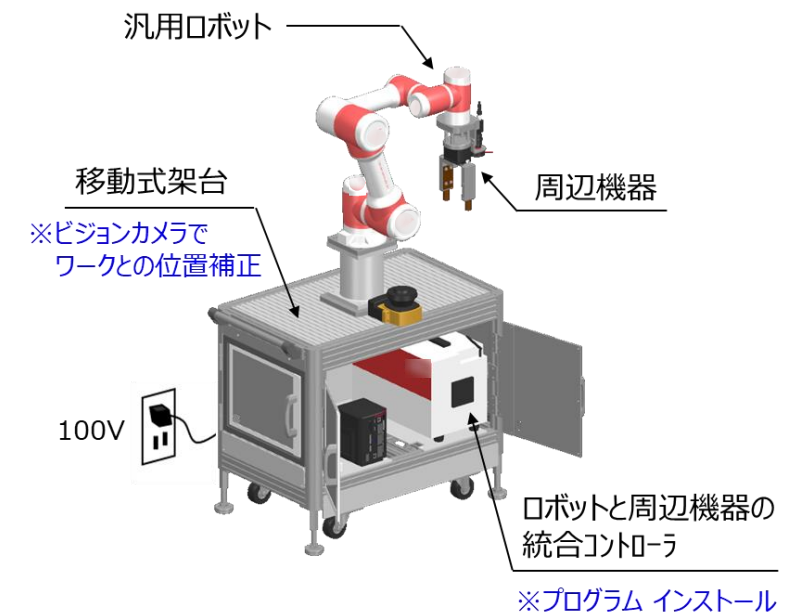
【活動目的】

中小企業をはじめ、製造業に協働ロボットを広めるため、愛三工業製の協働ロボットパッケージのニーズがあるか調査を行う。

【取組方針】

事業化の取っ掛かりの為の活動になり、期間が短いため、短期目標としてニーズデータの収集、解析、を行う。

》製品・システムの概要



》各回ミーティング等の実施概要

【第1回】 24.11.21

第1回協働ロボットの導入を一緒に考えるミーティング
参加者:21名

【第2回】 24.12.13

第2回協働ロボットの導入を一緒に考えるミーティング
参加者:19名

【個別交流会・自動車部品メーカーA】 25.1.28、2.7

第二回ミーティングに来場した企業と個別に工場見学や交流会を実施。
すでに導入している愛三工業豊田工場と、導入を希望されている企業の工場をそれぞれ見学し、協働ロボットの導入の検討を行った。

【第3回】

プロジェクトチーム活動のまとめ、
今後の方針の確認



》成果・PTで明らかになったこと

【協働ロボットに関するニーズ】

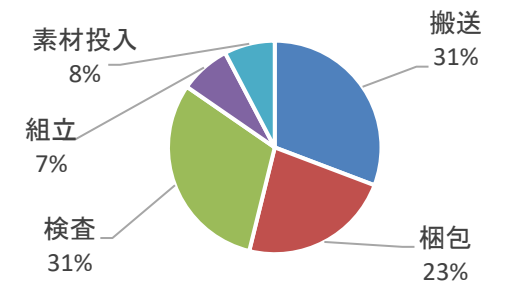
・単純作業、素材投入、搬送、外観検査、組立において8割弱程度のニーズがある。

【導入前のコンサルの必要性】

・RA等の導入前の準備が出来ておらず、コスト感等、「良く分からない」の回答が多い。
・補助金活用を含む導入前のコンサルに関してニーズが大きいことがわかった。

【個別アプローチ先の獲得】

・ミーティングを通じて、個別にアプローチできそうな企業との繋がりができた



協働ロボットで自動化したい工程は何ですか？(第一回Mの結果)

》課題・今後に向けての取り組み

- ・ミーティングでつながりが出来た会社への個別アプローチを行う。
- ・2025年はテストマーケティングを行い、社会貢献を第一に活動を継続する。
- ・なお、補助金申請の煩雑さや、分かりにくさ、リスクアセスメントの不透明さが課題として挙げられ、解決の糸口として重点的に取り組んでいく。